



国指定特別天然記念物「**蒲生のクス**」

大正 11 年 3 月 8 日 (国天然記念物指定) 昭和 27 年 3 月 29 日 (国特別天然記念物指定)
推定樹齢 1500 年 樹 高 30.00m 根 廻 り 33.57m 目通り幹廻り 24.22m

「蒲生のクス」は、昭和63年度に環境庁の巨樹・巨木林調査によって、日本一の巨樹であることが証明された。

樹幹の下部には凹凸が多く、内部には直径4.5m(約8畳敷)の空洞がある。枝張りには四方に広がり、その壮観な様は、まるで怪鳥が空から降り立ったようである。

保安4年(1123年)閏2月21日に、蒲生院の領主であった蒲生上総介舜清が、豊前国宇佐八幡宮を勧請して、この地に正八幡若宮(蒲生八幡神社)を建立した。その時すでに「蒲生のクス」は、神木として祀られていたという。

伝説では、和氣清麻呂が宇佐八幡の神託を奉じ上総に流された時に蒲生を訪れて、手にした杖を大地に刺したところ、それが根つき大きく成長したものが「蒲生のクス」だとも言われている。また、出水地方に残る伝説では、悲しき恋物語によって「出水の大樹」と「蒲生のクス」は互いに相思の樹であるとも言われている。

これまでの長い歳月や自然災害の影響で「蒲生のクス」の樹勢に衰退が見られたため、平成8年度には、この歴史的遺産を永く保護し後世に伝え残すことと、平成8年度から4ヶ年計画で国庫補助事業による「蒲生のクス」保護増殖事業を実施した。

始良市教育委員会

国指定特別天然記念物「**蒲生のクス**」

鹿児島県始良市蒲生町 (蒲生八幡神社)

指 定：大正 11 年 3 月 8 日「国天然記念物指定」
昭和 27 年 3 月 29 日「国特別天然記念物指定」

推定樹齢：1,500 年
樹 高：30 m
根 周：33.57 m
目通幹周：24.22 m

「蒲生のクス」は、蒲生八幡神社の御神木として祀られています。昭和63年度に環境省の巨樹・巨木林調査によって、幹周が日本一であることが証明されました。

樹幹の下部には凹凸が多く、内部には直径4.5m(約8畳敷)の空洞があります。

また、枝張りには四方に広がり、その壮観な様は、まるで怪鳥が空から舞い降りたようです。伝説では、和氣清麻呂が手にした杖を大地に刺したところ、それが根つき大きく成長したと言われています。

これまでの長い歳月や自然災害の影響で樹勢に衰退が見られたため、平成8年度に国庫事業による保護増殖事業が行われ、現在に至っています。



謹賀新年

一般社団法人日本造園建設業協会

会長 **和田 新也**

令和6年の年頭にあたり

新年明けましておめでとうございます。令和6年の正月を、皆様方におかれましては、穏やかに過ごしのことと、お慶び申し上げます。

さて、昨年を振り返りますと、令和2年以来続いた新型コロナウイルスの流行にも収まる気配が見え、経済活動の本格的復活へ向け日本社会が動き始めた年でありました。

一方残念なことに、世界では、ロシアによるウクライナへの侵攻は未だ続いており、更にはガザ地区においても戦闘が勃発し、多大な人的犠牲が生じています。一刻も早い終息を祈るばかりです。またそれに伴うエネルギー、食糧、および様々な原材料の供給問題は深刻であり、諸物価の高騰は続いています。

協会活動においては、コロナ感染症の沈静化を受け、6月の総会においては、久しぶりに多くのご来賓と会員の方々が一堂に会し、日造協50周年記念講演会及び祝賀会を開催することが出来ました。理事会や事務局長会議等も対面での開催を実施し、リアルコミュニケーションの良さを会員の方々も実感したところと思います。今後はコロナ禍に学んだオンライン会議の良さも生かしながら、対面・ハイブリッド、オンラインを効率良く使いこなしながら、有意義な会議と活動の充実を図ってまいります。

さて、昨年もしましたとおり、日造協が取り組むべき課題は多岐に渡り、難問が山積しております。



激甚化・頻発化する大規模自然災害、担い手の確保・育成、建設キャリアアップシステム、安全衛生対策の推進、いよいよ本年から建設業界へも適用されることになる時間外労働の上限規制、等への対応や、2027年国際園芸博覧会への協力、SDGs、カーボンニュートラル、グリーンインフラの推進、日造協資格制度の普及・運用、協会財政基盤の抜本的な見直し、人件費・原材料費高騰への対応等々、向かい風と追い風、横風が并举に吹き荒れている状況です。

日造協では昨年度もこれら課題に対応すべく様々な活動をしてまいりました。

人材確保に向け、女性活躍推進部会の大学や高校等への「出前講座」、「造園建設業の紹介動画」の制作、2027年国際園芸博覧会特別委員会の立ち上げ、またこれまで効率的な活用がなかなか出来なかった、委員会や支部等でとりまとめた過去の様々な資料を会員限定で何時でも検索し閲覧できる「造園デジタル図書館」の開設等がその一例です。

課題の多くは問題を内包したまま時代が動いています。造園業の社会的使命達成に向け、会員の皆様と共に地道に一步ずつでも前進できるよう努力してまいりますので、より一層のご協力の程よろしくお願い申し上げます。

本年が皆様方にとって、明るい未来が展望できる良き年になりますよう、心から祈念申し上げます。新年の挨拶とさせていただきます。

2024年
新春座談会

造園業への転職が天職に！

今回の座談会は、異業種から造園業に転職された皆様の転職のきっかけや造園業に対するイメージ、今後の造園業へのご意見をいただく趣旨と聞いています。人材の流動化は時代の流れですが、離職者より入職者の方が多いことが、業界存続のポイントになります。皆さんのご意見を参考に造園業への入職者を増やし、業界内にずっとにいと気が付かないことを教えていただくことで、課題解決へのヒントも得られると思います。本日は忌憚なくご意見を語っていただければと思います。（座談会冒頭、和田会長あいさつより）

座談会出席者

石川 実氏	湘南造園(株)	小林 俊幸氏	みずえ緑地(株)
鮫島 一彦氏	(株)富士植木	澤田 佑馬氏	(株)山梅
庄子 未咲氏	西武造園(株)	中村 憲晃氏	箱根植木(株)
(司会) 田上 貴	(一社) 日本造園建設業協会 広報活動部会委員		
オブザーバー：和田 新也	(一社) 日本造園建設業協会 会長		
藤吉 信之	(一社) 日本造園建設業協会 専務理事		
成家 岳	(一社) 日本造園建設業協会 広報活動部会会長		

司会 早速ですが、鮫島さんから席順に、現職と簡単な自己紹介をお願いします。

鮫島 私は入社から約6年となります。初めは公園の緑地管理担当、その後は公園の園長、今は主に丸の内界隈の維持管理と、都内の商業施設やオフィスと住居が一体化した施設の維持管理を、監督的な立場、現場代理人として行う一方で、御寺や個人邸の樹木の手入れは技能者として、それぞれを半々くらいずつ担っています。今週前半は、山梨で松の手入れと雪吊りをしてきたところです。

小林 今日は広島からやってきました。現在、広島県緑化センターで指定管理者として、緑地の維持管理や倒れると危ない樹木の調査などを行っています。

全くの異業種から転職して約11年になります。初めの2年間は、いろんな現場を経験する意味で、公園の維持管理や個人邸の通常管理を行い、その後現在の緑化センターで働いています。

石川 入社5年目で、公園の所長を務めるほか、神奈川県西部地区の複数の公園管理、指定管理部門のリーダーとして、指定管理全般を担っています。

庄子 私は入社8年目で、現在は主に六本木ヒルズの植栽維持管理を担当しており、現場代理人の仕事をメインにやらせていただいています。

中村 転職して2年経たないくらいで、新築の外構や屋上緑化などの現場に携わり、今は青山の新築ビルの造園工事を行っています。

澤田 入社して9年目です。7年間は造園工事の現場代理人と営業をして、都内での仕事が多く、オリンピックに関連した工事の仕事などをしていました。

現在は、管理・メンテナンスの管理課で、国の緑地管理工事を中心に現場代理人をして、民間・一般企業のお客様の窓口として、現場担当兼営業担当の仕事をしています。

季節の変化も感じながら、自然物に関われる仕事をしてみたいと、思い切って転職しました。

小林 私は大学卒業後、神戸市に本社がある環境分野のプラントエンジニアリング会社に就職し、14年間勤めました。その半分が装置の開発で、残りの半分は



小林 俊幸氏

水処理施設の設計でした。

転職前の約3年間は、大阪湾沖の埋立地の排水処理施設を設計する大きなプロジェクトを任せられ、竣工して引き渡した途端に何か拍子抜けしたような気になりました。設計部門といっても会社の方針で、自分で図面を引くことはほとんどなく、委託して上がってきたものをチェックして、お客さんに出すというスタイルに変わりました。

以前は現場に行き、話を聞いて設計することもありましたが、鮫島さんと同じくずっと建物の中で、上がってきた図面にハンコを押す生活が続くと、この先20年、仕事を続けられるのかなという疑問が湧き、思い切って異業種に転職しようと考えました。

当時は、結婚していなかったのも、何をしようかも決めずに、すばっと辞めて、とりあえず屋外、お天道様の下で働くことが一つのポイントとしてあって、退職後2年間、専門学校に通い、造園を勉強して、現在の会社に就職しました。

石川 私は大学卒業後、ファッション関係の会社に就職しました。

日本橋にある130年続く老舗のハンカチーフで有名な会社で、10年の営業と、自由が丘に店舗ができ、店長10年の20年間勤めましたが、上司の姿から20年後の自分は想像できず、ここにずっといれないと思い始めました。

週末にサッカーをしていて、ベルマーレとの繋がりから、神奈川県サッカー協会がグラウンドを作る話を聞いて面白そうだなと思っていたところ、たまたま日本サッカー協会主催の講習会に参加した時、そこで県のサッカー協会にスカウトされ、就職することになりました。

横浜市に人工芝のサッカー場を作り、その初代所長になり、協会に5年間勤めました。

するとサッカーつながりで、湘南造園が指定管理者のスポーツ公園で所長職を担っていて、グラウンド管理の経験者がいるということで、僕に話が来て、入社

とともに所長をすることになりました。

公園の所長になってみると、緑地の維持管理をはじめ、いろいろな知識が必要になるので、公園管理運営士や施工管理技士などの資格を取ったり、造園について学んでいるところです。

庄子 前職は小売り業で、大学卒業後、スーパーマーケットに勤めていました。

大学時代に農業の大切さを学び、野菜に興味があったので、青果部で働いていました。1年目は野菜や果物を扱いましたが、2年目くらいから花卉部門に異動となり、約6年、切花や鉢物の販売をしました。

仕事をしながら、自分は接客や販売に向いていないのではという思いが強くなっていったのと、鉢物を扱ったことから、植物の勉強をしてみたくなり、専門学校に通うことにしました。

専門学校に入って、初めて造園という仕事があることを知り、在学中に造園技能士の資格を取ることもできたので、外で造園の仕事をするのもいいなと思うようになり、学校の先生が西武造園を紹介してくださって入社しました。

中村 前職は農協で、大学卒業後1年は東京の金融部門で窓口や保険の販売をしていました。

2年目から販売部門の直売所で、野菜や果物だけでなく、花と植木も扱い、私は植物担当になり、その店舗に5年おり、店長もさせていただきました。

そして、お客さんが運べないとか、植え方が分からないときにお手伝いをする中で、植木や花の知識が身に付き、ある時、庭を作って欲しいという依頼があり、お客様と樹木を選び、生垣をここに作ってなど、1か月ぐらい庭づくりに関わり、更地からお客さんが喜んでくれる庭を作ることができ、これは楽しいなと思いました。その後、こうした庭づくりをいくつかして、これを本職にしたいと思って、転職しました。

澤田 大学卒業後の2年間、食品メーカーの製造部門で毎日同じ業務をしていました。就活中に親が倒れたこともあって、地元で仕事をしようという思いがある中、入社後にグループ会社を含めた転職があると知り、不安になりました。

勤務時間も朝6時に現場に入って、繁忙期は深夜零時まで現場。休憩は昼と10時と3時しかなく、自分がすり減っていくのを感じ、自分の人生、このままでいいのかなと転職を考えはじめました。転職先が造園業になったのは、何かのご縁だと思っています。

前職と転職のきっかけ

司会 今度は、転職前のお仕事と転職のきっかけについてお聞かせください。

鮫島 前職は、経営コンサルタントでした。主に、大企業向けの業務改善のコンサルティングやプロジェクトマネジメントなどを20年ぐらいしておりました。前職においては人に関する仕組みづくりに携わり、プライベートでも東日本大震災や熊本地震の際に現地のボランティア活動やプロジェクトマネージャーを担った経験などから、コミュニティづくりというか、ソフト面の仕組みづくりに関しては、ある程度、自信を持って出来るようになりました。しかし、ソフト面だけでなく、目に見える場づくり、ハード面のものづくりもできるように自分の能力を高め、ソフトとハードが融合した場づくり、そんな仕事ができないかと思いました。

そういう理想の場づくりは、自分なりに考えた仮説でしたが、その場に生活する人、勤めている人、人の交流をソフトな面から考えるのと同時に、その空間を

どうするかというハード面に、結果的に、少しずつ関わられてきているのではないかと思っています。

具体的には、丸の内には丸の内の空間の良さ、御寺には御寺にあった空間づくりが大切で、実際に、手入れの中で、理想の空間に近づけることができる可能性があると感じているので、そういったところにやりがいを感じています。

転職のきっかけは、もうひとつ単純なことがあって、前職はビル内の冷暖房が整った部屋にいて、パソコンで資料を作り、ミーティングがメインで、タクシー移動も多く、人工的な環境に身を置き、こういう生活を20年以上して、この先さらに20年も続けていくと、人間らしく生きていると言えるのだろうかと思ったので、アタマとカラダを使い、天候や



鮫島 一彦氏

転職前と転職後の造園業のイメージ

司会 造園業に転職する前と後のギャップ、イメージが変わったり、思っていた仕事と違ったことはありますか。

澤田 転職先がたまたま造園になりましたが、建築士をしていた父を小さい頃から見て育ち、そういう何かを作り上げる

沖縄県	鹿児島県	宮崎県	大分県	熊本県	長崎県	佐賀県	福岡県	愛媛県	高知県	香川県	徳島県	山口県	島根県	鳥取県	広島県	岡山県	和歌山県	奈良県	兵庫県	大阪府	京都府	滋賀県	福井県	三重県	愛知県	静岡県	岐阜県	石川県	富山県	新潟県	長野県	山梨県	神奈川県	東京都	千葉県	埼玉県	群馬県	栃木県	茨城県	福島県	山形県	秋田県	宮城県	岩手県	青森県	北海道
森根	井上	下湯	栗木	吉村	松田	村山	内山	高須賀	植田	藤田	稲富	多々良	持田	西谷	福島	小林	的場	今西	入谷	奈須	高石	上田	南	水谷	中嶋	内山	中山	北郷	久郷	近郷	山崎	依田	田口	成家	伊藤	森川	山田	増田	水庭	相良	今野	正木	古積	佐藤	三浦	四宮
清昭	恒治	一弘	康一	昌洋	英明	剛優	盛敏	誠満	秀樹	俊広	健司	正樹	勝一	慶一	和義	盛州	康彰	芳郎	正典	正弘	誠	南	雅義	春海	和敏	晴芳	忠	総一朗	愼治	陽一郎	信幸	正忠	高岳	昌紀	忠雄	博一	政博	久仁正	孝輝	康昇	利之	繁				

支
部
長

もっと造園業のアピールを！



澤田 佑馬 氏

山梅の記事を見つけました。

そこには、埼玉の松原近隣公園を整備したことが書かれ、公園づくりが造園の仕事だと知り、面接を受けてみようと思いました。

以前は、造園業すら知らず、木を扱うのが植木屋さんでしょくらいにしか思っていませんでした。しかし、造園業は公園や道路、まちの緑、里山、まちづくりにもしていると知り、率直にすごいなと思いました。

面接で会社の将来性や働いてる先輩たちの話を聞き、自分の将来を重ね合わせると、すごくしっくりくるものがあり、入社を決意しました。業務内容については、そもそも造園を知らなかったので、ギャップもありませんでした。

ただ、転職といっても前職2年で第2新卒のようなものだったので、人生の再スタートという気持ちでいましたが、初の中途採用者という立ち位置へのプレッシャーというか、心理的な負担がありました。

しかし、平均年齢33歳という若い人

仕事への憧れがありました。

父やはり、父のように建設に携わる仕事がしたいという思いから転職サイトを見ていると、たまたま初めて中途採用をする

が多い会社で、上が今の取締役とか部長の世代、その次が自分たちの世代で同年代なので、コミュニケーションが図りやすく、すぐに解消できました。

中村 私の場合、前職で庭づくりを造園の方と一緒にしていたので、ギャップというほどのものは感じなかったです。

庄子 専門学校は、造園業をされていた先生がいて、造園の実習もあり、幸運にも造園のアルバイトをさせてもらったりしていたので、転職後のギャップはありません。

石川 会社に入る前の造園のイメージ



石川 実氏

は木を切る仕事でした。入ってみると公共工事や緑地管理、Jリーグのピッチを作って、指定管理もやって、今はオリーブ畑を耕し、オイルの抽出、販売をしているので、造園業というか会社の事業の幅の広さを感じます。

小林 私は造園業を知らなかったのですが、ギャップはありません。環境エンジニアリングに関わっていたこともあり、環境や自然、植物関係の仕事をしたいと漠然と思い、途中で園芸にも切り替えられる専門学校で造園コースを専攻しました。1年生の時に3級造園技能士の実技練習で、石組や植栽をして、どれも面白く、いまにつながっています。

かそうとしています。

それと人材不足で、当社でいうと30代が少なく、新卒で入っても数年で辞めてしまうこともあり、先のことを考えると人材の確保は不可欠です。

造園業の休日・勤務時間は良好

中村 お客さんとのやりとりや基本的な植物について

は、前職の知識や経験が生かされていると思いますが、最初の現場はずっと石積と流れで、半年後に植木に触れ、久しぶりって思いました。

石の扱いを経験してからは、普段の生活でも石を観察するようになり、さらに興味が湧き、これまでより広い視点で空間を捉えられ、ますますいろいろなことに興味を持つようになりました。

勤務時間は、前職で残業も多かったですが、現職は基本的に土日祝日休みで、事務作業が必要な時もありますが、現場は直行直帰が多いので、仕事が終わった後の自分の時間で資格の勉強をしたり、友達と遊びに行ったりもしています。

庄子 先ほどのギャップにも関係しますが、学校で習って分かったような気がしていたものの、入社してすぐは、あれをしてという細かな指示はなく、言葉が難しかったり、分かって当然という認識で説明がなかったりと苦労もありました。

前職の小売業は、関わる規模が小さかったのもありますが、そういう戸惑いを感じたことはありませんでした。

ただ、私は転職者だけど新入社員みたいなものだったので、まずはみてね、みたいなことだったのかもしれない。

勤務時間は、前職では仕事が間に合わないと感じたり、遅く帰ったりしてました。今の会社はコロナ禍で在宅勤務やリモートワークも推奨され、働き方改革の推進や業務の割り振りなど、極端に誰かに負担が掛からないようになっています。

当社の維持管理の現場は女性社員の割合が多く、業務でも女性の感覚を求められている部分があるので、そうしたものを含めてセンスを磨くのが大事だと感じています。

私自身も積極的な方ではないのですが、造園の方々は裏方、黒子なんだよみたいな職人気質で、アピールすることがあまりないので、折角いい仕事をしてい



中村 憲晃 氏

また、転職の話と異なり、指定管理をされていると同じ不安をお持ちだと思いますが、更新できない時にどうなるかは私自身も不安に思っています。

でも知られる機会が少ないのだと思います。担当している六本木ヒルズが2023年に20周年を迎え、「ヒルズで働く人」の一人としてラジオで取り上げられたことをきっかけに、そういう仕事をしている人があるんだと反響がありました。造園業を知っていただくことが一番の課題だと思っています。

小林 勤務時間は現在、定時に行って定時に帰れる状況です。前職で以前は夕方に打合せ、明日の朝に直した図面をということもあり、夜遅くまでの残業もありましたが、転職する頃はそういうことも少なく、時代の変化だと思います。

前職と一番大きな違いは体を使うことです。40歳での転職で、技能や知識が乏しいというのは仕方がないにしろ、一番不安だったのは体力が持つかで、専門学校に通っていた時にジョギングをはじめ、前職で増えた体重を元に戻し、自分では万全の状況でしたが、初仕事が伐採した枝葉をダンプまでひたすら手で運ぶ作業でとてもきつく感じました。

今考えると大した作業でもなく、体が慣れていなかっただけでしたが、ずっとデスクワークをしていた者からすると驚きで、続けられないかとも思いました。

前職が役立ったのは、ISOの中小企業版と言われるエコアクション21の認証を会社が取得するときに、担当となり貢献できました。

知識や技能の差は、ずっとやっている方と比べると及びませんが、現在の指定管理の現場では、そのあたりの力不足を感じることはありません。ただ、個人邸の庭木の剪定などは能力差があるので、自分の得意なところで頑張ればと思っています。

澤田 造園業と製造業を比べた自分にとって一番の違いは、まずやっていることが楽しいし、すごくロマンがあることです。

製造業もものづくりですが、均質なものを効率的に繰り返して作ることが求められ、そのものづくりの一部分を担う仕事です。できあがったものがスーパーに並んで、買ってくれている人を見て良かったと思いましたが、感動っていう実感はありませんでした。それが大きな違いです。

勤務時間については、転職のきっかけで話したとおり、前職は残業が多く休みは少なかったですが、今の会社は原則18時には退社となっており、スマホの活用など、それを可能にする仕組みづく

前職と現職の良い点・悪い点



田上 貴

前職と現職の良い点・悪い点、造園業の課題について何がありますか。

石川 前職での経験は、卸や小売り、接客やサッカー場の芝生管理や運営の経験が生かされており、前職とのつながりからサッカー場の活用などは特に生かされていると思います。また、前職と比べ現職は、仕事の幅がものすごく広く、これはそれぞれの会社や立場によっても違うと思いますが、自分の裁量、取り組み方の自由度が高いです。

それと働かなければいけない時間も短くなりました。最初の会社で始業の1時間前に出社するようにしていたので、今もその習慣が抜けず、ついつい長時間仕事をしてしまいますが、前職と現職の勤務時間について、皆さんにお聞きしたいです。

司会 そもそも造園が知られていないし、造園業という業種を選んで、皆さんが転職された訳ではないことが分かりましたが、

前職と現職の良い点・悪い点、造園業の課題について何がありますか。

前職と現職の良い点・悪い点、造園業の課題について何がありますか。

課題という点では、公園の指定管理は不特定多数の方が利用し、とても大事な仕事ですが、会社としては儲けるというより、造園業をアピールする機会にした方がいいのではないかと思います。

造園業のイメージの話がありました。当社は若い人からするとJリーグのピッチを作っている会社だと思われているのではないのでしょうか。

造園業自体が一般に知られていないですし、当社だとサッカー場のピッチや指定管理をはじめ、公共工事や個人庭の管理、墓石もやっていますが知られておらず、造園業界に身を置く僕が造園業を語り尽くせないくらいなので、一般の人にとっては造園業が何か分からないと思います。

造園の方は職人というかシャイで、指示するのも上手ではなく、というのも自分で何でもできてしまうので、指示する前に自分でやってしまします。

もっとコミュニケーションしたり、連携できると面白いことができるのではないかと、観葉植物の貸し出しを行うグリーンリース事業部に公園施設へ植物を置いてもらうように働きかけたり、会社のネットワークを使って、公園管理に活

賀 春

一般社団法人日本造園建設業協会

会長

和田 新也

副会長

井内 敬三

専務理事

正本 信之

業務執行理事

藤吉 幸男

理事

伊藤 幸男

理事

大嶋 聡

理事

山田 拓広

理事

有路 信

理事

入谷 芳郎

理事

金剛 剛敏

理事

内山 剛敏

理事

久郷 幸浩

理事

古積 慎治

理事

近陽 一郎

理事

相良 政博

理事

佐々木 創太

理事

執行 英利

理事

森根 清雄

理事

山田 忠雄

理事

渡邊 豪裕

理事

嘉屋 幸浩

理事

古積 義人

理事

鈴木 義人

理事

近嶋 陽一郎

北海道 北陸 東北 関東 中部 近畿 中国 四国 九州

森根 執行 高須 賀盛 西谷 勝之 中島 祥之 中嶋 和敏 近嶋 陽一郎 鈴木 義人 古積 幸浩 渡邊 豪裕 田雑 忠雄 山田 清雄 藤根 慎昭 西谷 勝之 成家 岳忠 中山 祥之 中島 和敏 月山 光夫 高須 賀盛 関 正義 鈴木 義人 執行 英利 佐々木 創太 相良 政博 近陽 一郎 古積 慎治 久郷 幸浩 嘉屋 幸浩 金剛 剛敏 内山 剛敏 入谷 芳郎 有路 信 山田 拓広 大嶋 聡 伊藤 幸男 藤吉 幸男 正本 信之 田本 敬三 井内 敬三 和田 新也

2024 年 新春座談会

造園業への転職が天職に！ もっと造園業のアピールを！



座談会の様子



りができています。

今、一番の課題は、採用担当で合同説明会にいくと、大手企業など名前が通っている会社に学生が大勢集まり、造園自体が知られず人が集まらないことです。

造園の専門用語など、伝わらない言葉は使わずに、いろんな人に喜んでもらい、感動してもらう緑の空間作り、そういう仕事はどうですか、と分かりやすい表現をすると学生にも興味を持ってもらえます。

しかし、実際にどんな仕事をしている

かは、とても説明がしづらく、現場の映像をみても、単なる屋外労働であることしか分かりません。

今日のお話で、外で自然を相手に仕事をしたい、ものづくり、何もないところに何かを作ったり、植物を扱いたいという方には、特にお薦めできる業種ということが分かりましたが、そのほかに造園の仕事の魅力を伝える、造園で働きたいと思ってもらうにはどうしたらいいかをお聞きしたいです。

怖い顔ではなく、できれば笑顔を

司会 造園業界にずっといる人より、転職された方が、業界の課題についての改善策もより広い視点で考えられると思いますが、いかがですか。

石川 サッカー関連だとグリーンキーパーは、外国では神様みたいな仕事ですよ。選手の体、足を守っているのが芝生で、試合も左右します。でも、日本だと単なる芝刈りの人って思っている人が多いように思います。

それと、公園管理をしていて、工事をしている人の顔が怖いって言われたことがあります。笑顔で作業をするのも難しいでしょうから、工事の方には興味を持って見ている方がいらっしゃったら、お声がけをしてみて下さいと伝えていま

す。それと大変だと思いますが、笑顔をつくるということも大事だと思います。

鮫島 私も手入れをしているときは、声をかけられると作業が中断してしまうので、悩ましい部分はありますが、ずっと見ている人がいるときは、興味や関心を持って頂けるチャンスでもあるので、例えば、「この木は〇〇という木で、今は〇〇の作業をしているところなんです」と言った具合に、こちらから、お声がけをすることにしています。作業の効率としては悪くなりますが、みどりに理解を深めて愛着を持ってもらうためにも、こういった積み重ねが大切だと思ってます。

楽しくてやりがいのある造園の仕事

司会 少子高齢化が進み、人材難はどの業界でも問題となっており、特に建設業は 2024 年問題と合わせ深刻な状況で、日造協は人材育成部会や担い手育成・確保推進部会、女性活躍推進部会をはじめ、さまざまな方面から、造園業を担う人材の育成と確保に努めていますが、今日は多くのヒントをいただきました。

最後にこれから取り組みたいことや課題解決へのご意見、造園の魅力など、一言いただければと思います。

鮫島 まだまだ自分には能力が足りないと思っているので、目の前の仕事を精一杯しつつ技能を高められればと思っています。

造園の仕事は、樹木一本だけでも、目隠しとか木姿を鑑賞するとか、その場に合った目的がある一方で、建物と干渉する、見通しや日当たりが悪くなるといった状況、また、周辺の環境にいかにも適合させていくかを考えて作業をしていく必要があると感じています。相手は生き物ですから一つとして同じものはなく、自分自身も常に同じということがない、一期一会で常に試され、ワクワクしながら仕事ができ、それだけでも楽しく、さらにい

ろいろな人に喜んでもらえる、やりがいのある仕事だと考えてます。

自らが楽をして、手を抜こうと思えばそれもできるかもしれませんが、しかし、造園の素晴らしさを分かってもらうには、良い仕事をやり続けることが大事で、良いものが溢れていれば、それに気が付かなかった人もそれに気づくようになると共に、良くないものに違和感を覚えると信じてます。ですから、私は、とにかく良い仕事をして、造園の良さを広めたいと思っています。

小林 前職は JIS で全部規格が決められた工業製品の鉄骨などを使うものでしたが、造園が主として扱うものは、ひとつひとつ違う自然物で、それを扱う人間の感性や技能が如実に出てくる変わった仕事だと私は思っていて、これが造園の魅力のひとつになると思っています。

そして、そのものづくりを自分の力、チームの力ですることができ、管理においては、いいものにも変えていけるし、悪くしてしまうこともあるやりがいのある仕事です。

この仕事をして、嬉しかった最初の出来事を今でも覚えています。普通に公

園で手入れしたら、歩いてきたおじいちゃんとおばあちゃんから、「綺麗になるね」という言葉をいただいたことです。

見ず知らずの人に、前の仕事でそんなこと言ってもらったことはないですから、この仕事を選んで良かったと思いました。改めて考えても普通に歩いている市民の方から声を掛けられる仕事というのは、あまりないと思います。

それだけ造園の仕事は多くの人たちの生活の近くにあって、自分たちが思っている以上に、周りの人は見ているし、好意的に思われているんだと思います。

石川 公園管理をしていると、同じ日、同じことは二度とありません。新しい毎日が訪れるのが僕は楽しくて、マニュアル化できないこともたくさんあって、人との対応も、相手の人、その人がどんな気持ちなのかを考えて、いつも新鮮な気持ちで仕事ができます。

また、会社も社員一人一人を尊重して

くれて、仕事を任せてくれるので、責任も大きいですが、やりがいがあります。前に話した資格も、取らされている感覚はなく、自分がより仕事をしやすくなるためであって、毎日がチャレンジで、楽しいです。

庄子 私は、まだ正直「とても楽しい」と感じるまでいい感じではない感じがしますが、会社はフィードバックをしてくれるので、現場の課題も一人で抱えなくていいですし、今の現場でいいですか、違う現場をやりたいですか、という希望も聞いてくれます。

一つのことに馴染むのに時間が掛かるタイプなので、7 年間同じ現場を担当していますが、生きものが相手ということもあり、毎年違う変化や、昨年できなかったことが出来るようになったり、任せられたり、造園の仕事の仕方がやっと分かってきたような気がします。これからもっと楽しく仕事ができると思っています。

感動を提供できるいい仕事をし続けよう

中村 2022 年に埼玉県川越市の氷川神社新築工事で、石積みをして、流れを作って、高木を植えて、出来上がった時に、こんなに何もないところから、こんなすごい庭ができるんだと感動を覚えました。

川越では有名な観光スポットなので、友達にも話をしたら、行ってきたよって写真を送ってくれたり、SNS にアップされていたりで、改めて何か結構すごい仕事を自分はしてるんだなと思いました。

そういう見てくれる人がいるということは、自分が仕事をする上で、すごいモチベーションに繋がっています。

澤田 造園の仕事は一期一会、毎日が新鮮というお話がありましたが、まさにその通りで、同じものや同じ日はなく、そこにどれだけの熱量を投入できるかで限りがなく、いくらでも手を掛けられるし、手を抜くことができる怖さもあります。

現場自体に優劣はありませんが、お話にあった観光名所など知名度があったりすると、それだけ責任や達成感も大きく、管理であれば、弱ってかわいそうな樹木の手入れをして、春に芽吹いてお客さんが喜んでくれたり、前の仕事では味わえなかったエンドユーザーが喜んでくれるのを目の当たりにすることができます。

造園が扱っているのは、植物だったりその空間だったりしますが、自分たちの仕事で一番大事なことは、感動を提供できるかで、お客さんに喜んでもらう、公園であれば地域の方々に愛されたり、そういう空間づくりをし続けることだと思っています。

その大切さを自分も忘れず、これからも先輩たちを見習いながら、後輩にも伝

えていきたいですし、アピール不足の話があったように、それを知らないこれからの若い人たちにも伝え、造園業で働く人たち以外にも、造園のファンになってもらいたい、多くの人に魅力を伝えていきたいと思っています。

司会 最後に皆さんがおっしゃったことは、造園業界にずっといる方々も感じていると思いますが、自画自賛と言われてしまいそうですし、転職で造園業界に入られた方たちが、造園という仕事楽しくやりがいのある「天職」のように捉えられ、休みも自分次第できちんととれる働く環境もいいというお話は、客観性もあって、多くの人の心に響くと思います。

一方で、職人気質というか、お客さんや世の中へのアピールが足らず、分かっていただけでいいとお話もいただきました。

その結果、造園で仕事をする人が、グリーンキーパーやアーボリストのような海外では憧れの職業となっているにもかかわらず、逆に建設業の悪いイメージの部分で捉えられることもあり、アピールの必要性を感じました。

造園の仕事の価値が認められれば、海外で日本庭園の技術者は芸術家扱いで、工期や金額を減らされることもなく、それよりも納得のいく素晴らしいものを作ってくださいといわれると聞きましたが、私達もそうした評価を得るために、ますます良いものづくりをし、それを広くアピールしていきたいと思いました。

本日は、貴重なお話をいただき、ありがとうございました。